

(1) さんさんバス

ア 基本的な考え方

(ア) 基本目標

「市民の誰もがバスを通じて市内の行きたい場所に行くことができる」公共交通体系の実現

(イ) 基本方針

さんさんバスを市内のバス交通体系の基幹として位置づけ、既存の民営バス路線やタクシーなどを含めた総合的なバス交通サービスの提供

イ バスの運行目的

1. 市内の交通空白地帯の解消
2. 高齢者・移動困難者の社会参加の支援
3. 公共公益施設などへの交通手段の確保
4. 地域間の交流促進
5. 交通の安全と円滑化の促進

ウ バス運行の背景・経緯

昭和 63 年の三好ヶ丘のまち開き以来、急速に増加する人口と相反するように、市内の公共交通手段である路線バスが衰退していった。

平成 7 年度に実施した住民意識調査では、住みにくい理由のトップに「交通の便の悪さ」が挙げられ、公共交通の整備・充実を求める声が高まった。

また、同時期に町立三好病院（現：みよし市民病院）の郊外への新築移転方針が決定したことを契機として、平成 8 年度から住民の身近な日常生活の交通手段として、福祉バス事業の調査検討に着手した。平成 10 年度には潜在需要やニーズ把握のため、1 か月間の実験運行を実施し、その調査結果を基に、「福祉バス利用促進協議会（平成 11 年 5 月設置、現在のさんさんバス利用促進審議会）」で試行運行内容を協議検討した。

- ・ 平成 11 年 10 月 1 日から試行運行を開始
(2 路線、年末年始を除く毎日運行、8:00~17:00、午前 2 往復、午後 2 往復)
- ・ 平成 12 年 4 月 1 日から昼・夕便を追加し 1 日 5 往復に変更
- ・ 平成 12 年 8 月 10 日、福祉バス利用促進協議会から提言書の提出
(人にやさしいバス車両の導入やルート、料金、ダイヤなどについて提言)
- ・ 平成 12 年 12 月 1 日からルート変更。バスロケーションシステムの実験開始
(アイモール・イオン三好店、みよし市役所バス停を追加)
- ・ 平成 12 年 12 月新車両のバスデザイン決定(「くろまつくん」「さつきちゃん」の愛称をイメージ化)
- ・ 平成 13 年 4 月 28 日から新病院の竣工とあわせ本格運行を開始
(小型ノンステップバスの導入。新病院へのルート変更、運行本数を 2 往復追加し 6 往復に変更、さらに通年無休運行開始)
- ・ 平成 13 年 10 月から利便性向上のため、バスロケーション案内システムを導入
- ・ 平成 15 年 10 月から乗合タクシーの試行運行を開始
- ・ 平成 16 年 10 月から運行拡大に伴いダイヤの全面改正。乗合タクシーの本格運行を開始
(各路線ともバスを 1 台ずつ増台し、運行本数を 11 往復に変更。名鉄バス「三好ヶ丘団地線」の廃止に伴い三好ヶ丘地域内への乗り入れ開始)

- ・ 平成 19 年 10 月から運行拡大のための社会実験を実施
(始発、最終を一往復分増加することによる運行時間帯の拡大実験)
- ・ 平成 20 年 4 月から運行拡大に伴いダイヤの全面改正
(社会実験の結果を受け、運行本数を増やさずに運行時間帯を拡大)
- ・ 平成 24 年 4 月から、タクシー乗継の利用が多かった、豊田厚生病院とベイシア三好店をバス路線に組み入れるとともに、車両を 2 台増車して 6 台体制による各 25 便の運行とした。また、パソコンや携帯電話でバスの位置情報の確認ができる新バスロケーションシステムの運用を開始し、利用者の利便性を向上
- ・ 平成 25 年 10 月 1 日から運行経路の一部見直しによる運行時間の短縮と朝の通勤・通学利用者の利便性向上のため、早朝の第 1 便に限り市役所、保健センター、イオン、ベイシア、豊田厚生病院を通過する便を設定。利用者の少なかった福谷根浦バス停を乗合タクシー路線にする見直しを行った。

エ 対象

(ア) 対象者

高齢者や身体障がい者を含めた市民や市を訪れる方

高齢者や免許を持たない市民などの社会参加を促進するために「福祉バス」として運行を開始。現在ではサービスも拡大し、コミュニティバスとして運行。

ただし、日常生活の移動手段であり、通勤・通学を全て考慮するものではない。

(イ) 対象範囲

市内（南北方向の交通手段の確保）

- ・ 利用促進策として、隣接市のコミュニティバスとの接続を実施し、利便性を向上させた。

平成 20 年 9 月 16 日 明知下公民館バス停での“高岡ふれあいバス”（豊田市）との接続

平成 24 年 4 月 1 日 豊田厚生病院バス停での“とよたおいでんバス”（豊田市）との接続

オ 料金

(ア) 料金設定

1 乗車 100 円（回数券は 11 枚綴りで 1,000 円）

- ・ 1 コインで乗車可能という手軽さがあり、利用者アンケートでは 90%近い方が運賃に満足している。
- ・ 回数券については、三好ヶ丘を巡回する民間事業者が運行するループバスの回数券と相互利用が可能

(イ) 障がい者や高齢者等の料金設定

未就学児と介助者のみ無料

無料となる介助者とは、自分ひとりではバスの乗降が困難な車イス利用者などの介助者

カ 現在のバスの運行状況

(ア) 運行ルート

市内を南北 2 路線で結びシャトル方式で運行

(交流路線) くらまつくん

黒笹駅～三好ヶ丘駅～福谷～（新屋経由）～三好～打越～明知下公民館

(生活路線) さつきちゃん

黒笹駅～三好ヶ丘駅～福谷～（東山台経由）～三好～西一色～福田児童館

(イ) 運行日および運行時間

毎日運行（年中無休）

運行時間：午前 6 時 44 分から午後 9 時 5 分まで

(ウ) 運行事業者

愛知つばめ交通株式会社

(エ) 運行本数

両路線ともに1日あたり25便

(オ) バス停設置の間隔

バス利便地域を基本的に300~500m(徒歩5~10分)の範囲に設定し、この範囲内にバス停を設置した。

キ これまでのバス関連設備費用

《平成13年度本格運行開始時》

日野小型ノンステップバス2台購入(定員35人、座席数16席): 35,175千円

バス停整備(102基): 2,486千円

バスロケーションシステム(システム本体、電子バス停4基、通信機器): 7,980千円

《平成16年度運行拡大時》

同型バス2台購入: 36,015千円

バス停整備(標識型10基、既存設備利用型6箇所): 339千円

《平成20年度》

日野小型ノンステップバス2台更新(定員36人、座席数11席): 38,064千円

《平成22年度》

日野小型ノンステップバス2台更新(定員36人、座席数11席): 38,534千円

ドライブレコーダー設置(車載用4組、管理・解析ソフト1式): 1,743千円

《平成23年度》

日野小型ノンステップバス2台購入(定員36人、座席数11席、ドライブレコーダー搭載)
: 39,093千円

バスロケーションシステム: 2,919千円

《平成27年度》

日野小型ノンステップバス2台更新(定員36人、座席数11席、ドライブレコーダー搭載)
: 39,091千円

ク 今後検討すべき課題

(ア) 利用者の利便性の向上のため、他市町のコミュニティバスの運行路線の接続

日進市の“くるりんバス”や東郷町“じゅんかい君”などとの接続の検討を行う。

(イ) 運転免許証の自主返納者への支援

さんさんバスの回数券を配布するなど、自主返納者に対する支援策の検討を行う。

(ウ) 公共施設の新設に伴うバス利用者の利便性向上

(仮称)図書館学習交流プラザの開館に合わせて、バス停(乗り場)位置の見直しと路線の一部見直しを行う。

(2) 乗合タクシー

ア 乗合タクシー運行の背景・経緯

さんさんバスの運行開始後、利用者は徐々に増え続け、多くの市民の足として定着してきた。しかし、効率的な運行（経費の抑制や路線を延伸することによる運行時間）を確保しながら現行の2路線で市域の大部分をカバー（人口カバー率でおよそ96%）するため、一部の地域ではサービスが限られていた。

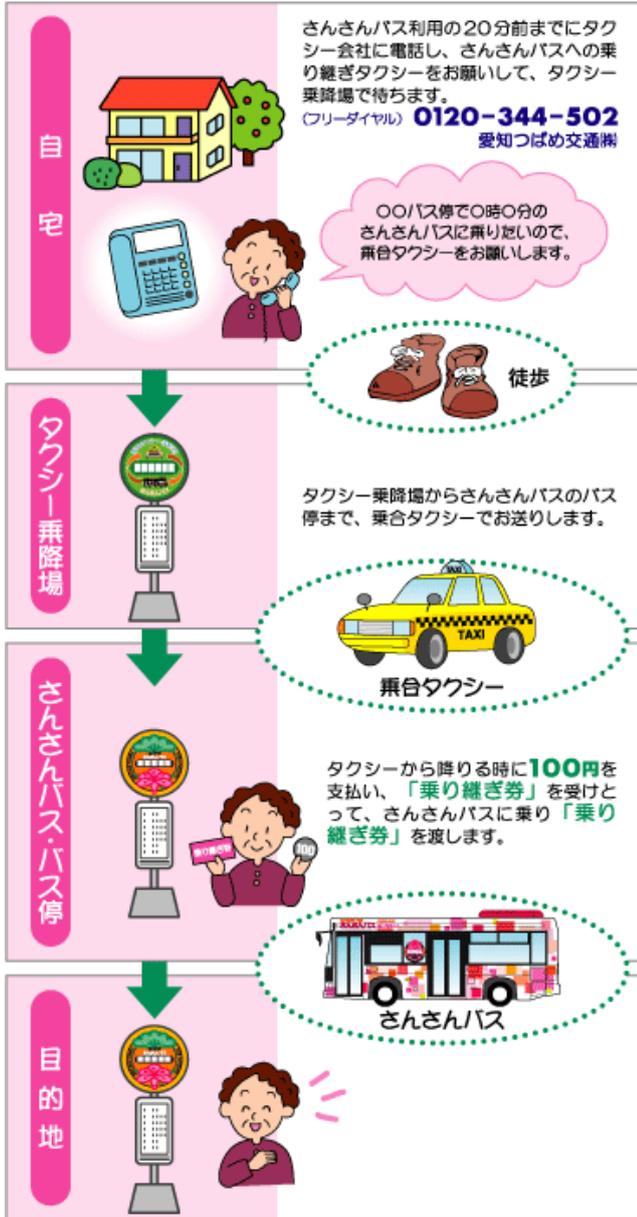
そこで、バス停から半径500mのバス利便地域から外れる交通不便地区においても、さんさんバスの利用ができるよう、バスと連携する乗合タクシーの運行実験を平成14年度に2ヶ月間実施した。その調査結果を基に平成15年に半年間の試行運行後、平成16年10月より本格運行を開始した。

- ・ 平成14年11月1日から12月31日まで実験運行を実施
- ・ 平成15年10月1日から平成16年3月30日まで試行運行を実施
- ・ 平成16年10月1日から本格運行を開始
- ・ 平成19年9月から乗合タクシー「ベイシア三好店」乗降場を追加
- ・ 平成21年4月から乗合タクシー「浄水駅」「豊田厚生病院」「やすらぎ霊園」乗降場を浄水地区への交通需要調査のために追加
- ・ 平成24年4月から特に利用の多かった「豊田厚生病院」と「ベイシア三好店」については、バス路線に組み入れることによりタクシー乗降場を廃止。さらに、交通不便地区解消のため、筋生地区に2か所、打越地区には3か所のタクシー乗降場新設
- ・ バス路線の効率性を高めるため、比較的用户者が少ない「根浦」と「東名三好」をタクシー乗降所とした。

ア 乗合タクシーの利用方法

さんさんバス「乗合タクシーサービス」のしくみ

行き



帰り

